PAT-NO:

JP406239267A

DOCUMENT-IDENTIFIER:

JP 06239267 A

TITLE:

JOINT STRUCTURE OF PILLAR UPPER

SECTION

PUBN-DATE:

August 30, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

OIKE, FUTOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NISSAN MOTOR CO LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO:

JP05026334

APPL-DATE:

February 16, 1993

INT-CL (IPC): B62D025/06, B62D025/04

US-CL-CURRENT: 296/203.01, 296/203.03

ABSTRACT:

PURPOSE: To enable the pillar inner and outer of a pillar to be jointed to each other without any need of providing an access hole on a brace, and increase the strength of the joint of a pillar upper section and a roof.

CONSTITUTION: A brace 13 has a bulge section 19 projected toward a pillar inner 15 for contact with the joint section 17 thereof. The joint section 18 of a pillar outer 16, the joint section 17 of a pillar inner 15 and the bulge section 19 of the brace 13 are spot welded to each other.

COPYRIGHT: (C) 1994, JPO& Japio

(19)日本国特計庁 (JP) (12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-239267

(43)公開日 平成6年(1994)8月30日

(51)Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

FΙ

技術表示箇所

B 6 2 D 25/06

B 7615-3D

25/04

A 7615-3D

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 4 頁)

(21)出願番号

特願平5-26334

(22)出願日

平成5年(1993)2月16日

(71)出願人 000003997

日産自動車株式会社

神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地

(72) 発明者 大池 太

神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地日産自

動車株式会社内

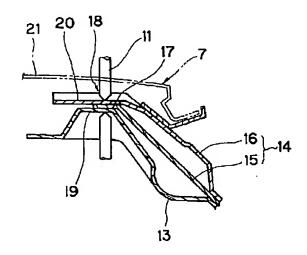
(74)代理人 弁理士 西脇 民雄

(54) 【発明の名称】 ピラー上部接合構造

(57)【要約】

【目的】 ブレースに作業孔を開けることなく、ピラー のピラーインナーと、ピラーアウターとを連結させるこ とができ、ピラー上部とルーフとの接合部分の強度向上 を図ったピラー上部接合構造を提供する。

【構成】 ブレース13には、ピラーインナー15に向 かって突設され、このピラーインナー15の接合部17 に当接する膨出部19が形成されている。そして、ピラ ーアウター16の接合部18と、前記ピラーインナー1 5の接合部17と、前記ブレース13の脚出部19とが 互いにスポット溶接されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ピラーのピラーアウター上部及びピラー インナー上部の各々に接合部を形成して、該接合部同士 を接合すると共に、該ピラーの上部の下側にブレースが 設けられたピラー上部接合構造において、

前記プレースに前記ピラーインナーに向かって突設さ れ、該ピラーインナーの接合部に当接する膨出部を形成 し、前記ピラーアウターの接合部と、該ピラーインナー の接合部と、前記ブレースの膨出部とを互いに接合する ことを特徴とするピラー上部接合構造。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】この発明は、例えば車両のフロン トウインドウパネル両側縁部に設けられるフロントピラ ーの上部で、ルーフとの接合部分の強度向上を図ったピ ラー上部接合構造に関するものである。

[0002]

【従来の技術】従来からこの種のものとしては、例えば 図5乃至図7に示すようなものがある。 車体1には、フ ピラー4が配設され、このフロントピラー4は、主にピ ラーインナー5と、ピラーアウター6とから構成され、 このフロントピラー4の上部がルーフ7に接合されてい

【0003】このルーフ7は、主にルーフパネル21、 このルーフパネル21を支持するルーフサイドレール2 2、ルーフボウ23、リアルーフレール24、フロント ルーフレール25等から構成されている。

【0004】そして、かかるルーフ7とフロントピラー 4の接合部分の構造は以下のようになっている。

【0005】すなわち、フロントピラー4上部の下側に は、一端部8aがフロントルーフレール25に、他端部 8bがルーフサイドレール22に接合されるブレース8 が配設された後、このブレース8の作業孔12.12を 介して図7に示すように溶接装置11にて、 ピラーイン ナー5及びピラーアウター6の上部の接合部9及び10 が互いにスポット溶接され、次いで、ルーフパネル21 が配設されるようになっている。このようにブレース8 を配設することにより、この部分の強度を向上させるよ うにしている。

【0006】なお、この種のものとしては、例えば特開 平1-247284号公報に記載されたようなものがあ る。

[0007]

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このよ うな従来のピラー上部接合構造では、ブレース8に、作 業孔12,12を形成しているので、図7に示すように 外力Fが作用した際に、その部分に応力が集中して亀裂 等が生じ易く、フロントピラー4上部とルーフ7との接 合部分の強度を有効に向上させることができなかった。

【0008】そこで、この発明は、ブレースに作業孔を 開けることなく、ピラーのピラーインナーと、ピラーア ウターとを連結させることができ、ピラー上部とルーフ との接合部分の強度向上を図ったピラー上部接合構造を 提供することを課題としている。

[0009]

【課題を解決するための手段】この発明は、かかる課題 に着目してなされたもので、ピラーのピラーアウター上 部及びピラーインナー上部の各々に接合部を形成して、 10 該接合部同士を接合すると共に、該ピラーの上部の下側 にブレースが設けられたピラー上部接合構造において、 前記ブレースに前記ピラーインナーに向かって突設さ れ、該ピラーインナーの接合部に当接する膨出部を形成 し、前記ピラーアウターの接合部と、該ピラーインナー の接合部と、前記ブレースの膨出部とを互いに接合する ピラー上部接合構造としたことを特徴としている。

[0010]

【作 用】かかる手段によれば、ブレースの膨出部と、 ピラーのピラーアウターの接合部と、ピラーインナーの ロントウインドウパネル2の側縁部3に沿ってフロント 20 接合部とを互いに接合すれば、従来のように、ブレース に作業孔を予め形成する必要がないと共に、膨出部によ り、ブレース自体の強度向上を図ることができ、しか も、このブレースの膨出部をピラーに固定することによ り、このピラー上部とルーフとの接合部分の強度が向上 することとなる。

[0011]

【実施例】以下、この発明の実施例を図面に基づいて説 明する。

【0012】図1乃至図4は、この発明の一実施例を示 30 すものである。なお、従来と同一乃至均等な部材は同一 符号を付して説明する。

【0013】まず構成を説明すると、図中符号14はフ ロントピラーで、このフロントピラー14は、主にピラ ーインナー15と、ピラーアウター16とから構成され ている。そして、このフロントピラー14の上部がルー フ7に接合されている。

【0014】この接合部分の構造は以下のようになって いる。

【0015】すなわち、フロントピラー14のピラーイ 40 ンナー15及びピラーアウター16の上部には、各々接 合部17及び18が形成されている。 このピラーアウタ -16の接合部18には、ピラーインナー15に向かっ て突設され、このピラーインナー15の前記接合部17 に当接する凹部20,20が形成されている。

【0016】また、フロントピラー14上部の下側に は、一端部13aが図示省略のフロントルーフレール に、他端部13bが図示省略のルーフサイドレールに接 合されるブレース13が配設されている。

【0017】このブレース13には、ピラーインナー1 50 5に向かって突設され、このピラーインナー15の接合

部17に当接する膨出部19、19が形成されている。 【0018】そして、図4に示すように、このピラーア ウター16の接合部18に形成された凹部20と、ピラ ーインナー15の接合部17と、ブレース13の膨出部 19とが互いに、溶接装置11によってスポット溶接さ れている。

【0019】接合後、図4中、二点鎖線で示すルーフパ ネル21が配設されるようになっている。

【0020】このように構成されたフロントピラー上部 接合構造では、ブレース13に膨出部19を形成するこ 10 とにより、この膨出部19と、ピラーアウター20の接 合部18と、ピラーインナー15の接合部17とを三枚 打ちすることができ、従来のように、ブレース13に作 業孔を予め形成しておく必要がない。従って、応力集中 が生じないと共に、膨出部19を形成することにより、 ブレース13自体の強度が向上することとなる。しか も、この膨出部19に相当する部分は、従来は接合部1 7,18に固定されていないが、ここでは、この膨出部 19を接合部17、18に接合している。従って、それ 合部分の強度が向上することとなる。

【0021】しかも、この実施例では、ピラーアウター 16の接合部18にも、凹部20が形成されているの で、この凹部20が無いものに比して、強度が向上する こととなり、ピラーアウター16のプレス成形後におけ るスプリングバックを防止することができる。

【0022】なお、上記実施例では、フロントピラーを 例示したが、ロアピラー等にも適用できる。

[0023]

【発明の効果】以上説明してきたように、この発明によ 30 19 ブレースの膨出部 れば、ブレースに膨出部を形成することにより、この膨

出部と、ピラーのピラーアウターの接合部と、ピラーイ ンナーの接合部とを互いに接合すれば、従来のように、 ブレースに作業孔を予め形成する必要がなく、膨出部に より、ブレース自体の強度向上を図ることができ、しか も、このブレースの膨出部をピラーに固定することによ り、このピラー上部とルーフとの接合部分の強度を向上

させることができる、という実用上有益な効果を発揮す

【図面の簡単な説明】

る。

【図1】この発明の一実施例のピラー上部接合構造を示 す分解斜視図である。

【図2】同実施例のピラー上部接合構造を示す要部の斜 視図である。

【図3】同実施例のピラー上部接合構造を示し、図2の A-A線に沿った断面図である。

【図4】同実施例のピラー上部接合構造を示し、図2の B-B線に沿った断面図である。

【図5】車体の一部を示す斜視図である。

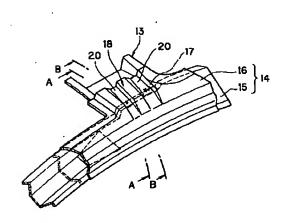
【図6】従来のブレースを示す斜視図である。

らのことからフロントピラー14の上部とルーフ7の接 20 【図7】従来のピラー上部接合構造を示し、図4に相当 する断面図である。

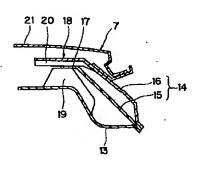
【符号の説明】

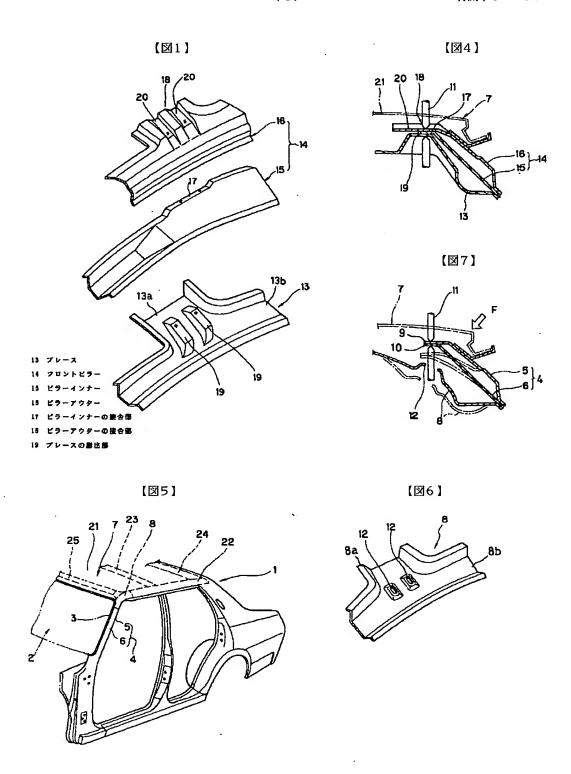
- 7 ルーフ
- 13 ブレース
- 14 フロントピラー
- 15 ピラーインナー
- 16 ピラーアウター
- 17 ピラーインナーの接合部
- 18 ピラーアウターの接合部

【図2】



【図3】





This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
☐ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.